

入江泰吉と 奈良を愛した 文士たち



東大寺法華堂月光菩薩立像



親子鹿



東大寺僧坊跡晩秋



会場 **高志の国文学館**

ふるさと文学の回廊①

平成25年4月10日(水) ~ 5月13日(日)

「こころのふるさと」として長きにわたり人々の中に生き続けている奈良。その奈良を訪れた近代文学者たちは、長い歴史の中に秘めた美や人々のところを取り上げ、自らの想いを書き綴った大和讃仰の文学作品をこぞって発表しました。そして、それらの文学作品に感銘し、また強い影響を受けた入江泰吉は、ふるさとである奈良の撮影を始めるのです。

今回は、文学をテーマにする高志の国文学館で、奈良を訪れた文士たちの名文の一節を取り上げ、入江作品を合せて紹介します。入江が覗くファインダーの先に見える文士たちの想いをご覧ください。

※フリースペースを利用したミニ写真展です。

開館時間 午前9時30分～午後5時

休館日 火曜日

観覧料 無料

主催 高志の国文学館

共催 (公財)富山県文化振興財団

協力 入江泰吉記念奈良市写真美術館

お問い合わせ

高志の国文学館

<http://www.koshibun.jp/>

〒930-0095 富山市舟橋南町2-22

TEL 076-431-5492 / FAX 076-431-5490



入江泰吉(1905-1992)

奈良市生まれ。写真家をめざし大阪へ出る。1931(昭和6)年、大阪に写真店「光芸社」を開き、文楽の写真家として活躍する。1945(昭和20)年3月、大阪大空襲に遭い自宅兼店舗を焼失、その日のうちにふるさと奈良へ引き揚げる。同年11月17日、疎開先から戻される東大寺法華堂四天王像を目撃、アメリカに接収されるとの噂を聞き、写真に記録することを決意。以後、奈良大和路の仏像、風景、伝統行事を中心に撮影し、晩年は「万葉の花」の撮影に専念する。約半世紀にわたって写真家として活躍する。主な作品に、『大和路』(東京創元社・1958年)、『古色大和路』(保育社・1970年)、『萬葉大和路』(保育社・1974年)、『花大和』(保育社・1976年)、『入江泰吉写真全集(全八巻)』(集英社・1981年)、『法隆寺』(小学館・1989年)など。主な受賞に、日本写真美術展文部大臣賞(1941年)、日本写真協会功労賞(1966年)、第24回菊池寛賞(1976年)、勲四等瑞宝章(1978年)、奈良市有功者特別表彰(1991年)など。享年86歳。

▶ 視聴覚を通じた万葉普及事業

本事業は、大阪府立大学・入江泰吉記念奈良市写真美術館・高岡市万葉歴史館の三者がコンソーシアム提携を結び推進しています。視覚として、奈良大和路の魅力を写真で今に伝える入江泰吉の作品を通じ、また聴覚として、毎年10月に万葉集の全巻を朗誦する行事を開催する高岡市や国内最大規模の万葉専門博物館である高岡市万葉歴史館を通じ万葉歌を紹介しています。

さらに、万葉普及の全国展開の第一弾として「万葉寫眞簡(万葉カード)」を発行し、全国の万葉関係博物館に協力を得て販売しています。そして、このカードによる収益は今後の万葉普及事業に還元されます。

萬葉 manyou card
寫眞簡



表面(写真と解説)



裏面(絵葉書)

万葉歌をイメージした美しい写真と歌の解説付きであなたに贈ります!!
カードは絵葉書としてもお使いいただけます。